

## 天気予報の充実と一般化

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2011-08-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 金沢, 郁江 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.14945/00005951">https://doi.org/10.14945/00005951</a>

# 天気予報の充実と一般化

二年 金沢郁江

最近、乗り物に乗ってみる車窓の景色に、学校の建物と共に運動場の片隅に立っている白い百葉箱をよくみかける。山間僻地の学校にさえも、この測器にとりくむ子供たちの姿が見られる。子供たちがそれぞれの発達段階、即ち興味、能力等に応じて自然現象の変化に眼を向き、これに親しんで行くことは、自然の中に生活しているものとして、生活をより科学的に合理的にするために非常に大切なことである。自然に親しむ子供たちにとって、毎日行われる観測結果から自然現象の変化を見出し、また明日の天気を予想することは非常に興味あることではあるが、これにはそれだけの準備と技術とを要することはいうまでもない。種々の観測結果からの科学的予想は、気象台や測候所で行われているが、我々はもっと手軽にいつでも天気が判断できるような一般化された方法も考えてみる必要がないだろうか。現在の観測による予報や、新聞やラジオで天気予報が行われていなかった時代には、観天望気の法といって、空の色や、雲の形や動き、雲の出る場所、風向きなどを見て、今までの経験から天気を判断していたのである。小学校の子供たちの予報として、また一般人の日常の手軽な予報として、もう一度古い昔にかえることもいいと思う。観天望気の法は、その土地の天気予報には有力な参考になるものであるから、各学校が連絡をとり合って、どのような地形においては、どのような天気のくせがあるか、またどんな諺があるかを知らせあっても、面白い有益な学習ができるだろうと思う。昔からいろいろたえられている天気の諺はこの点で非常によい参考になる。数多い諺の中からその主なものを次にひろってみよう。

1. 太陽や月がカサをかむると雨。
2. 朝の虹は雨、夕方の虹は晴。
3. 夕焼がしたら天気がよい。
4. 鐘の音がよく聞えると雨。
5. 星の光がよくキラキラゆれる時は風が強くなる。
6. 煙が真直に上ると晴、西になびくと雨。
7. 羽雲や羊雲が出ると雨。
8. 綿雲は晴。

9. 雨蛙が鳴くと雨。
10. 魚が水面に出てパクパクすると雨がちかい。
11. 小さい虫がたくさん低くむれ飛んでいると雨。
12. 燕が地面近く飛ぶと雨が近い。
13. 飯炊に飯粒が煮くと晴、きれいにとれると雨。
14. 便所や下水の臭いの強い時は雨。
15. 暴風が吹くと天気が悪くなる。
16. 奈良の大仏様が汗をかくと雨。
17. むし暑くなると天気が悪くなる。
18. 雲が山にかゝると雨。

以上の諺は長年の経験から、その土地の天気について、よくあたるものを言いつたえたもので、現在では科学的にもよく説明がついている。

気象台や測候所では各地からの資料をもとにして天気図をかき、これをもとにして、今までの経験的な法則や統計、物理的な気団分析などを考え合わせて天気予報を発表しているが、これをもっと確実なものにするためにも、我々はこれらの予報の他に、空模様や、動植物などの様子、天気の諺などにもよく注意して、簡単な予報を試み天気を判断することによって、よりよい天気予報がなされるようになるのではないだろうか。